

FOTOZOFIO 2023

(1)作家名、自己紹介文および経歴

橋村 豊 Yutaka Hashimura

1964年 静岡県静岡市生まれ 現在、藤枝市在住
2023年2月現在、民間企業に勤務する一方で写真制作に取り組んでいる。

[個展・グループ展]

2010年 雪と氷のシンフォニー 個展 ギャラリーとりこ
2011年 Die Baracke 個展 ギャラリーとりこ
2013年 風化する過去 個展 ギャラリーとりこ
2013年 クリスマスフォトグラフィショー2013参加 インスタイル フォトグラフィーセンター
2016年 Steidl Book Award Japan [流される心 (特攻を決めた時)] ロングリストノミネート
2017年 それぞれの銀座展 公募企画展 ゆう画廊
2017年 AXISフォトマルシェ4出展2-
2017年 倉敷フォトミュラルf個展部門出展
2018年 写真展 Break/ブレイク Gallery SUN
2021年 写真展「terrestrial」 KAGIYA GALLERY
2021年 写真展「terrestrial」 PHOTO GALLERY FLOW NAGOYA
2021年 写真展 飯田信雄・橋村豊写真展/nature/culture masayoshi Suzuki gallery
2022年 グループ展 PRIVATE HOUSE 「生きられた家」 参加/東京都内

(2) 制作の動機

私は山も海もある自然豊かな地域に生まれ育ってきた。しかし、私が子供の頃に経験してきた頃と比べると、だいぶ環境は変化してきている。そのなかでブルーノ・ラトゥールが提唱するテレストリアルに出会う。グローバルでもなければローカルでもない人類の新しい生き方でもあるテレストリアルに向かうためのヒントを得ていくため、身近に起きる温暖化の影響を観察し撮影している。

(3) 写真のテーマ説明 ステートメント

ここ数年、地球温暖化という言葉聞く機会が増え、その影響と思われる異常な高温、風水害、山火事と様々な災害が世界中で発生し、時に目の当たりにすることが増えてきた。

私が実際に温暖化の影響を目の当たりにしたのは、2012年の八丈島で、地元の方から温暖化の影響で今まで採れたテングサが採れなくなったことを聞いたときだ。

それまでは地球温暖化については知っていたが、身近な国内でも影響が出始めていることにショックを受けた。

それから数年経たないうちに国内においても、今までにない大型の台風、大雨による災害が増加してきている。

産業革命以降、人々の欲は止まることなく開発を進めた、その結果として温室効果ガスの二酸化炭素が増加した。二酸化炭素と温暖化の関係を疑問視する声はあるが増加とともに気温が上昇していることは事実である。

気温上昇は海面温度の上昇を伴い、それは二酸化炭素の吸収や酸素を生み出す植物プランクトンにも影響を与えるばかりか、生存することさえできなくなる。そうなれば、地上生物の生存も危ぶまれることになる。

私たちは、自己の存在が周りの生物や物理的現象に依存することで生きていることに気づく時期に来ている。

私は、これからも地上の綻びを、フィールドワークしながら見つけ撮影を続けたい。



terrestrial



terrestrial



terrestrial



terrestrial



terrestrial



terrestrial



terrestrial



terrestrial



terrestrial



terrestrial

(5)連絡先

Webサイト: <http://www5c.biglobe.ne.jp/~kage/>